平和記念だより 84

2022年7月

◆編集・発行/高松市市民政策局人権啓発課　高松市平和記念館
◆連　絡　先/高松市松島町一丁目15番1号　たかまつミライエ5階
〒760-0068　TEL(087)833-2211　FAX(087)833-2244

平和を語るつどい・憲法記念平和映画祭

令和４年５月１４日(土)、たかまつミライエ１階多目的室において、「平和を語るつどい・憲法記念平和映画祭」を開催しました。

第一部「平和を語るつどい」は、「愛と心を語り継ぐ会」の田中敬子さんによる絵本朗読「柞田(くにた)飛行場」です。お話は、香川県の西部に位置する三豊平野にある柞田村に生まれた少女が主人公です。戦争により少女一家の生活は一変します。父の出征と戦死、無理がたたった祖父の死、さらに、軍隊による飛行場建設のため一家は立ち退きを強いられることになります。参加者の皆さんは、田中さんの朗読とスクリーンに映し出される絵本の挿絵に引き込まれ、少女がたどった悲しい運命をなぞりながら、絵本に込められた平和への思いをしっかりと受け止めているようでした。

第二部「憲法記念平和映画祭」では、久保つぎこさん原作、戸田恵梨香さん、大原櫻子さんＷ主演の「あの日のオルガン」を上映しました。戦時下、子どもたちを集団疎開させるために奮闘した保母さんたちの物語です。誰もが自分のことで精いっぱいだった時代、困難を乗り越え、幼い命を守ろうとした若き保母さんたちの姿に胸が熱くなる映画でした。

ご多忙の中、ご来場いただいた皆様、ありがとうございました。

平和を語るつどい ・憲法記念平和映画祭 に参加して…

■戦争のために民を不幸に陥れた柞田飛行場の建設は、結局、戦争に負け、また壊されて、居住地や農地に戻されたそうです。戦争は何の特典もありません。全世界から無残な戦争がなくなればと、痛切に思います。(70代女性)

■「あの日のオルガン」とても感動しました。戦争の中での決断と実行力に驚きました。こんなに子どもたちの将来を考えて、真剣に行動した人々がいたことに、人の心は美しい、素晴らしいと思いました。救われた思いです。多くの方にみてほしいです。(60代女性)

「柞田飛行場」を朗読する田中さん

会場の様子

証言 高松空襲

あの日わたしは

証言①　浅田宜仁さん

空襲が始まり、私は一人で自転車を押して、焼夷弾が落ちて燃えているところを避けて逃げた。防空壕があったが、人であふれていて入れなかった。西へ西へと向かって、市役所前の道を通り、昭和町を抜けて郷東川橋をめざした。途中、大勢の人が逃げ回っていた。夜が明けて、「高松は燃えてしまって何もないぞ。」と周囲で話している声が聞こえてきた。しばらくして、家族がいるはずの屋島の知人宅に向かった。途中、中新町の防火貯水槽で大勢人が浮いていたようだが、怖くて見られなかった。夕方、屋島に到着し、家族と再会した。

証言者プロフィール

- ■当時　中学１年生
- ■住所　築地町
- ■家族　８人
  父母、子ども６人
- ■家業　陶器店

「あの日わたしは　高松空襲～当時を伝える証言者の声～」(高松空襲を子どもたちに伝える会)証言映像より編集

平和映画☆上映会のお知らせ

平和記念館映像学習室において、次のとおり平和映画を上映します(無料)。

7月上旬の上映 「手記（空襲）」（22 分）

日　時▶ ７月１日～４日、「高松空襲展」において常時上映

解　説▶ 降り注ぐ焼夷弾、逃げ込んだ防空壕でのやりとり、家族を荼毘(だび)に付す様子など、「高松空襲」を経験した９名の方の手記や聞き取った内容を編集。絵画で再現した映像がそのありさまを忠実に伝える。製作は「高松空襲を子どもたちに伝える会」。

7月・8月の上映 「ふるさと-JAPAN-」（98 分）

日　時▶ ７月９日～8 月 28 日の土・日・祝日、午後２時～

解　説▶ 戦争末期、特攻機で死んでいった若者、そして戦後の平和時に海の事故で死んでしまった少女。亡くなった者の無念さや思いを受け継ぐため、童謡や唱歌の指導に情熱を注ぐ若い教師とそれに応える子どもたちの姿を描いた長編アニメーション。

9月の上映 「ボクとガク　-あの夏のものがたり-」（42 分）

日　時▶ ９月３日～9 月 25 日の土・日・祝日、午後１時～

解　説▶ 小学生のボク(藤村希望)とガク(横田岳)を仲直りさせるために、一人暮らしの高齢者(美代)が語ったのは、八幡大空襲で亡くなった兄の話。空襲で亡くなった人々の分まで懸命に生きてきた美代の思いを知り、ボクとガクの絆は一層強くなる。平和と人権の大切さを訴えるアニメーション。

※　都合により、上映作品・期間等を変更することがあります。

耳より情報

ポケット学芸員始めました

「ポケット学芸員」は、美術館や博物館の展示物の解説等をスマートフォンで楽しめる無料アプリです。高松市平和記念館では、令和４年３月に「ポケット学芸員」を導入しました。平和記念館のプロフィール、館内各ゾーン・コーナーの紹介や説明をお手持ちのスマートフォンでご覧になれます。来館時に見学しながら利用できるだけでなく、いつでも、どこにいても、アプリを開けばこれらの情報を得ることができます。今後も順次機能の充実を図る予定です。「ポケット学芸員」は、右の QR コードからダウンロードできます。ぜひご活用ください。

Download on the App Store　GET IT ON Google Play

▼今後の行事予定▲

6,7月

- **高松空襲展**
  - 期　日　令和４年６月２５日（土）～７月４日（月）
  - 場　所　たかまつミライエ５階　平和記念館
  - 内　容　高松空襲の被災写真・絵画・資料パネルを展示

7月

- **高松市戦争遺品展**
  - 期　日　令和４年７月１２日（火）～７月１８日（月・祝）
  - 場　所　瓦町 FLAG２階　コンコース
  - 内　容　高松空襲と戦争に関する写真・パネル・資料を展示

8月

- **教職員のための平和教育講演会**
  - 期　日　令和４年８月１日（月）14 時～16 時
  - 場　所　たかまつミライエ６階　男女共同参画センター研修室他
  - 内　容　講演「高松空襲の体験」と「平和学習」の説明
- **原爆写真展　～SDGs 未来に向かって平和と公正な社会を～**
  - 期　日　令和４年８月４日（木）～８月１０日（水）
  - 場　所　瓦町 FLAG8 階　IKŌDE 瓦町展示コーナー
  - 内　容　原爆関連資料と SDGs に関する資料を展示

11月

- **高松市戦争遺品等収蔵品巡回展**
  - 期　日　令和４年１１月１８日（金）・１９日（土）
  - 場　所　田村文化センター
  - 内　容　市民の皆様から寄贈された戦争遺品を中心に展示

※　新型コロナウイルス感染症の拡大などの状況により、開催を中止・延期する場合があります。

収蔵品紹介74

落下傘部隊（らっかさんぶたい）の写真

寄贈者　　大西　政夫 様

1942(昭和１７)年７月21日、栃木県宇都宮市にて、寄贈者が所属していた落下傘部隊「武田部隊」が、訓練成果を公開する天覧の落下傘降下を実施した。この写真は、そのときの隊員の乗り込みや降下時の様子を撮影したものである。

寄贈者は、1941(昭和１６)年、新設の落下傘部隊に配属され、埼玉県所沢で基礎訓練、宮崎県高千穂で実践訓練を受けた。一度除隊していたが、1945(昭和２０)年２月、再度落下傘部隊に編入された。同年８月１８日にグアム島へ出撃の予定だったが、終戦となったため落下傘を背負って８月末に帰郷。その落下傘も写真とともに寄贈された。

平和記念館「企画展示コーナー」で展示中

戦時用語解説 66

「零戦」と「隼」

【読み】「れいせん(ぜろせん)」と「はやぶさ」

【分類】兵器(戦闘機)

陸の「隼」、海の「零戦」と並び称された。小山悌（やすし）は中島飛行製作所で陸軍の一式戦闘機、愛称「隼」を開発し、堀越二郎は三菱重工で海軍の零式艦上戦闘機、略して「零戦」を設計した。

従来とは桁違いの性能を求められた「零戦」は、試験飛行や改良を繰り返し、1940(昭和15)年７月に制式採用となる。太平洋戦争開戦直後には数々の戦果を挙げ、その性能の高さを証明した。終戦までに10,908機が製造された。

1941(昭和16)年５月に制式採用となった「隼」は、操縦と離着陸の安定性に定評があった。戦意高揚のために制作された映画「加藤隼戦闘隊」により、その名は国民に広く知れ渡った。総生産機数は5,751機であった。

制式採用…軍隊などの組織で規格が認められて採用となること

参考：「戦前・戦中」用語ものしり物語
北村恒信　著　　光人社刊

編集メモ

映像資料「あの日わたしは（高松空襲～当時を伝える証言者の声～）」は高松空襲を経験した、当時6～20歳だった30名以上の方から聞き取った証言映像を39枚のDVDに記録したものです。平和記念だよりでは、今回からこの映像の内容を編集した「証言高松空襲・あの日わたしは」の連載をスタートしました。この連載を通して、DVD作成に携わった方々の「自分の悲惨な体験を語ることで、戦争を知らない世代に平和の尊さを伝えなければならない」という思いを少しでも届けることができれば、と考えています。

たかまつミライエ

高松市平和記念館（たかまつミライエ５階）

開館時間：午前９時～午後５時（入館は午後４時30分まで）
休 館 日：火曜日（祝日の場合は翌日）、年末年始12/29~1/3
入 館 料：無料
▼ホームページアドレス（平和啓発の推進事業がご覧いただけます）　▲QRコード
http://www.city.takamatsu.kagawa.jp/kurashi/shinotorikumi/jinken/keihatsu/heiwa/index.html

▶次回85号発行は、2022年10月です。